



発行所
特定非営利活動法人
JYMA日本青年遺骨収集団
 〒102-0076 東京都千代田区五番町2
 番町バレス303号室
 TEL03-6268-9939
 FAX03-3239-0109
 URL : <http://www.jyma.org>
 e-mail : info@jyma.org
 発行人 山口 美朝
 編集人 瀬尾 昌平

**千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式挙行
 今年は新たに二六八九柱を納骨**



拝礼される秋篠宮殿下

去る五月三十日、厚生労働省主催の「千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式」が東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて挙行された。
 当日は朝からぐずついた天気であったが、開始直前になると見計らったかのように雨が上がり、式典は滞



献花をする菅直人首相

りなく始まった。式典には秋篠宮殿下、同妃殿下の御臨席の下、多くの遺族・関係者が参列した。
 今回は昨年度迄に政府派遣遺骨収集にて収骨した、先の大戦で戦歿・殉難された方々の、氏名が判別できなかった御遺骨が、肅々とした雰囲気の中、計一六八九柱が同墓

苑納骨堂に納骨された。
 墓前には天皇皇后両陛下より御下賜された大花籠が飾られた。大塚耕平厚生労働副大臣の式次の後、御遺骨が納骨され、秋篠宮殿下、同妃殿下、内閣総理大臣および閣僚、諸外国の在日公館大使らの献花出席の各党代表者らの礼拝があった。
 今回の千鳥ヶ淵戦没者墓苑礼拝式では、等団の参加した七地域の他、参加できなかった他地域から収集された御遺骨を含み、これで同苑内に納骨された御遺骨の総数は、三十五万九千九百八柱となった。

近年の千鳥ヶ淵戦没者墓苑納骨数一覧

平成23年5月30日現在

地域別	昭和34.3.28	昭和34~63年	平成1~15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	計	戦没者数
北 辺	878	8										886	
本土及び周辺 沖縄、硫黄島	1,860	8,341	1,470	34	45	35	103	43	34	4	684	12,653	231,000
中 国 (旧満州)	37,024	570										37,594	245,400
中国(除旧満州) 台 湾	35,064	3,720	2									38,786	561,100
朝 鮮	51	429	2	1								483	
フィリピン	4,313	86,330	3,877	81	41	17	67	161	814	3,788		99,489	518,000
イ ン ド ネ シア	1,277	34,647	127		2				11			36,064	243,800
マ レー シ ア ベ ト ナ ム イ ン ド ネ シ ア	4,598	3,747	115	4	60	130	53	113	125		300	9,245	
中 部 太 平 洋 ニューギニア ソロモン諸島 ビスマルク諸島	2,016	105,372	4,414	204	122	34	424	169	340	116	690	113,901	546,300
旧 ソ 連	20	17	9,083	465	21	182	315	143	23			10,269	54,400
モ ン ゴ ル			465		9		11		59	29	15	588	
合 計	87,101	243,181	19,555	789	300	398	973	629	1,406	3,937	1,689	359,958	2,400,000

戦没者数は軍人、軍属及び一般邦人の合計を示す

「追悼」

旧戦友連会長
佐藤博志さんご逝去



佐藤会長略歴 大正11年6月19日仙台生まれ、昭和13年12月仙台一中より陸軍士官学校予科入学(陸士55期)、昭和16年7月陸軍士官学校卒、歩兵51連隊(在南京)連隊旗手を經て中隊長、昭和19年3月26日サンジャク南方10キロ付近にて4中隊長佐藤中尉以下突入、27日同地を占領するも、中隊長以下殆どが負傷し後送される。後送後、内地京都師団勤務、19年12月大尉任官、終戦後は東北大学に進み、日本鋼管(現JFE)勤務。取締役で退職後、まさに倒れるまで靖国社頭にて日本及び日本人の名誉のために闘った。

平成六年度に当法人が戦歿者遺骨収容事業を再開した折から、物心さまざまにご支援を頂いていた、旧戦友連会長・佐藤博志さんがご逝去されました。我々にとってかけがえのない理解者でいらしたので悲しみに堪えませんが、歴代の卒業生ならびに、現役学生の多くが、在りし日の佐藤さんにご助力を頂きました。事務局には天国の佐藤さんへ向けてのメッセージが届いていますので掲載いたします。謹んでご冥福をお祈りいたします。

台亭

三月十五日ご逝去と、五月十二日に知るといつ不始末、不覚の極みでした。こつなることは心のどこかに有りましたが、いざ亡くなると呆然としています。熱情溢れる真の憂国の志士が、またお一人お無くなりになり残念の極みです。国家は如何にあるべきか、靖国は如何にあるべきか、国民は如何にあるべきか、身をもってご指導いただきました。私の如き口舌の徒と異なり、

身をもって行動でご教授をいただきました。この集いに参加させて頂き、私が過去においての社会で経験した世間と違つ別の方面の活動のチャンスもいただきました。今更ながら感謝しております。靖国境内で、日比谷公園で、街頭宣伝で、或いは偕行社でのご指導やいくさ話、そして後図を託すJYMA諸君への想い等、思ひ出はつきませぬ。巨星墜つとの思いと、ご指導を肝

に銘じ、活動を続けたいと思います。
台亭

(旧戦友連会長代行 石橋 聰)

大学一年の夏、佐藤会長と初めて出会った。当時はJYMAはおろか、慰霊事業や社頭広報のこと、それに携わる組織や人のことも全く分からなかったが、佐藤会長が周りの人に慕われていて、初対面の私にも気を遣って頂いたことが印象的だった。旧戦友連月例会には、大学一年の十月に初参加し、派遣帰還所感を述べた。佐藤さんに「今後も派遣に行きたいか」と問われ、私が「授業が無ければ」とお答えすると「学生のうちに全部行っておけ」と言われた。そのとき、佐藤さんの方が全然元氣じゃないかと思ったのを覚えている。佐藤会長より若い私達が元氣を買っていた。体調を崩されて入院されたと聞いたときは、意識はしっかりしていらつしゃると聞いて、「佐藤さんならきつと元氣で帰っていらつしゃる」と安心して、理事長や前事務局長がお見舞いに行く際、同行しなかったが、あの時、同行しておけば良かった。佐藤会長御自身がどのように戦地で闘

い、どんな戦争を見て、どのようにして生還したのかも聞けなかった。本当に心残りだ。戦争経験者やご遺族のお話はずつと聞けるわけではない。佐藤会長にそんな大切な事を教えられた気がする。今まで本当に有難うございました。天国から私達のことを見守っていてください。

(平成23年度学生代表 山口美朝)

「国立慰霊追悼施設なんか作らせたら戦友に申し訳ない…」と涙を流しながら建設反対を訴えていた佐藤さん。その志は我々若者が引き継ぎます。天国で戦友の方や、倉林さんと再会できましたか? この国が変な方向に進まないように天国から見守ってください。佐藤さんに遊就館の案内をしてもらった事が有りました。あの戦争がどのようなものであったか、日本が何故戦つたか等、詳しく教えていただきました。ありがとうございます。夏の暑い日も雪の日も雨の降る日も靖国神社社頭でピコを撒き、マイクを握り、首相の靖国神社参拝を訴えていた佐藤さん。長い間お疲れ様でした。

(平成12年度卒 會田雄一郎)

本当にありがとございました。日本は現在大変な時を迎えています。佐藤さんの生き方を思い、これから頑張っていくます。優しく見守ってください。(国士大四年 渡邊志津加)

学生時代、社頭広報での佐藤さんの凛とした姿、そして温かい笑顔が今でも忘れられません。御冥福をお祈り申し上げます。

(平成14年度卒 池田靖子)

「大衆に巻かれる」という流れが顕著な現代社会において、佐藤さんが貫かれた「固い意志」は日本再認識における一筋の光でした。私は佐藤さんが指し示したその光景を人生の糧として生きています。佐藤中隊長殿、我々に活路を開いて頂きどうもありがとございました。(平成22年度卒 山澤健太)

佐藤さんの突然の悲報に驚いていました。ご生前は私達の活動にご理解、ご協力いただきまして、ありがとございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。(拓殖大四年 小田周)

今回の報せを聞き、深い悲しみと我々の世代がより一層の使命感を持って活動して行かねばならないと感じま

した。佐藤会長、我々若者が頑張って日本を支えて行きますのでどうぞ安らかにお休みください。合掌

(南山大三年 外山豊)

一度もお会いすることが出来ず残念な気持ちで一杯です。今まで本当にお疲れ様でした。そしてこれからもJYMAを見守ってください。

(学習院四年 瀧尾昌平)

佐藤さん！学生時代によく社頭広報でお世話になりました。どんなに暑い夏の日差しの時にも辛い顔をされないう佐藤さんに心を打たれたのを思い出します。私も辛い時にこそ笑顔を忘れずに生きていこうと思います。本当にお疲れ様でした。ありがとございました。(平成16年度卒 高橋公平)

この度の旧戦友連会長・佐藤博志さんのご逝去、心よりお悔やみ申し上げます。ご遺骨をお迎えするにあたり、私達学生の世代は戦史の知識も現場での遺骨収集の経験もまだ未熟です。しかし佐藤会長は親身に私達を励まし教えて下さいました。JYMAを今日まで支えて下さいましたことに心から感謝申し上げます。これからも私達はこ

遺骨を故郷にお連れすること、そしてご英霊の方々への慰霊・顕彰の気持ちを持ち、次世代に遺骨収集を繋げて参ります。どうか安らかにお休み下さいませ。(平成13年度卒 佐々木優子)

(平成13年度卒 佐々木優子)

佐藤さんの笑顔にはいつも元気を頂いておりました。学生よりも声が大きく勇ましい姿は今も脳裏に焼き付いています。そして何よりも優しく私達に接し、ご協力下さったことを心から感謝しております。本当にありがとございました。

(平成21年度卒 安斉慶)

十年前、靖国神社の社頭広報の時に、よくビルマでの戦いの様子をお聞きしました。陸士出身の毅然とした姿と、細かい部分まで教えてくださる記憶力が印象に残っています。ご冥福をお祈り致します。

(平成14年度卒 池田祥子)

佐藤さん、寂しいです。もっともっとおそばにいたかった。今まで本当に本当



在りし日の佐藤さんを囲んで(靖国神社神門前)

に有難うございました。これから少しずつ変わらず中隊長が大好きです！合掌。(社頭広報班 牛丸美奈子)

悲報を聞き大変残念です。戦中戦後と国の為にと中心となって悪天候の中でも社頭に立ち訴え続けていた姿は生涯忘れません。自分達に託された「使命」を今一度胸に刻み邁進します。御冥福をお祈り申し上げます。

(社頭広報班 菊地智太)

特定非営利活動法人 シェイワイエムエイ第9回総会開催される

去る五月二十九日、当法人は第9回総会を執り行い、来し方を振り返り未来を戦略的に見据えるべく、活発な論議がなされました。

1. 日時
平成二十二年五月二十九日(日) 十三時より

2. 場所 法人市ヶ谷事務所

3. 審議事項

- (1) 第1号議案
平成二十二年事業報告
- (2) 第2号議案
平成二十二年度収支決算
- (3) 第3号議案
平成二十三年事業計画
- (4) 第4号議案
平成二十三年度収支予算
- (5) 第5号議案
平成二十三年度役員人事
- (6) 第6号議案
定款の一部変更

4. 議事の経過及び議決の結果

(1) 開会の辞、国民儀礼、理事長挨拶に続き、司会者の高橋理事より本日の第九回総会は、定款第二十七条に定める定足数を満たしたので有効に成立した旨を告げ、議長に事務局・藤川を選出し、事務局より、議事録署名人を高橋理事・永野監事を選任したい旨の提案があり、承認され議案の審議に入る。

(2) 平成二十二年事業報告について、事務局より遺骨収集、国際協力、自主研修、各種参加行事、広報活動について、参加人員傾向などの分析資料などと共に説明があり、質疑応答の後、全員異議なく承認された。

(3) 監事より2号議案「平成二十二年度収支決算」についての説明があり、審議の結果、全員異議なく承認された。

(4) 平成二十三年事業計画については、平成二十二年の実績を踏まえ遺骨収集、国際協力、自主研修、各種参加行事、広報活動を骨子に計画され、昨年来の戦史検定事業の定着化のため、理事・学生執行部が連絡を密にし、他団体との協力関係を維持しながら実施していくことで承認された。

(5) 平成二十三年度収支予算については、従来の活動に加え、北マリアナ地域における交流事業や調査事業を追加するほか、丸山道調査プロジェクト、戦史検定事業定着化のための事業投資の応分負担をしていくことで決定した。

(6) 栗田理事より任期満了に伴い退任したいという申し出と、新たに井上達昭理事を副理事長に推薦することが了承され、その他の理事は重任、もしくは再任された。

(7) フィリピン奨学事業などで行なっていた社会教育の推進を図る活動を定款に新たに明文化した。

これを踏まえ、本年度の事業計画は次のように策定されました。

平成23年度事業計画(抄載)

遺骨収集事業

政府派遣には公示を請け公募し協力要員を派遣する予定である。協力体制を充足するに及んでは、昨年度よりも学生の参加者を増やし、厚労省から依頼を受けた定足数を満たす為、新規会員の獲得に積極的に挑む必要がある。

国際協力事業

国際協力事業には新たに北マリアナ地域における交流を開始するほか、高校向けマイクロネシア修学旅行事業実行のための一助として、同事業を定着させた。

各種調査事業

昨年度に引き続き、沖縄での遺骨収集事業自主派遣を予定。
中部太平洋地域調査事業は、本年度も継続事業として他団体と連絡を密にしながら進捗させていきたい。

他団体との提携事業

財団法人太平洋戦争戦没者慰霊協会のガタルカナル島における慰霊公苑再整備計画の実施、旧ソ連抑留中死亡者埋葬地調査事業などについて同財団と連絡を密にし、その進展を見守るものとし、必要性があれば随時、協力を行ないたい。

戦史検定に關しては、1. 本事業は主催団体の一角として、当法人の正式事業とする。
2. 本事業による収益は、慰霊事業の原資として、主催他団体との協議により使途を決

定する。3. 本事業における当法人の分担所掌業務は、事務局運営ならびに、催行時ににおけるスタッフの運用である。

各種行事

大東亜戦争全戦没者慰霊協議会慰霊祭を主催団体の一員として設営等を行なう。
東京ヤゴダ会が主催するシベリア鎮魂慰霊祭を、今年度も共催団体として参列、設営準備等を行なう。
「水戸歩二会」が行なうペリリュー島慰霊祭に当法人からも参列する。
元満州軍官学校第7期生の戦友世代が行なう同徳台第七期生会慰霊祭に参列、設営準備等を行なう。

昨年度末地震で中止となった活動報告会については、関係団体、OB・OGに呼び掛け、今年度こそは学生主催のもと企画、実施を行なう。

広報活動

10月15日・17日の3の日程で拓殖大学八王子キャンパスに於いて拓殖大学紅陵祭に今年度も出展する。
11月3日・4日に国士館大学梅ヶ丘キャンパスで実施される国士館大学の楓門祭に今年度も出展する。

ホームページを刷新により、問い合わせ者が増加したことから、対応の体系化につとめ、引き続きインターネットを活用した広報の重要性より高めていく。

機関紙「遺烈」に關しては従来通りの刊行を行ない、啓蒙活動に務めていく。
年次活動報告書「今、何を語らん」について今年度も発行を行ない、7月末の発送を目標とし、編集、発行する。

今年八月実施予定 ソロモン諸島 ガ島丸山道未送還遺骨情報収集活動自主派遣隊 本番に向けて登山訓練実施!!

今年の八月二十日から九月三日までの期間で予定している、JYMA、全国ソロモン会協同活動、ソロモン諸島ガダルカナル島丸山道における自主遺骨調査・収集派遣の本番に向け、去る平成二十三年五月十四日、志願隊員九名が登山訓練を実施致しました。ガ島派遣隊学生隊長を務めます私、山口美朝も参加致しましたので、この報告させて頂きます。

ガ島丸山道派遣に向けた登山訓練は、全国ソロモン会の崎津寛光派遣隊長を始めとする本派遣参加隊員総員十九名が集まり実施しております。今回で四度目の訓練となります。私は二回目の訓練より参加致しました。第二回は平成二十二年八月十八日、東京都奥多摩の鷹ノ巣山にて実施致しました。

天候に恵まれ、刺すような日差しの下で登頂しました。頂上までは到達しなかったものの、派遣隊員同士の意志疎通や、普段の生活では使えない無線機の使用も練習することができました。第三回は平成二十二年十月九日、東京都奥多摩の御前山にて実施致しました。第一回との最大の違いは天候であり、登山道付近到着の時点で雨が降っていました。しかし、この状況も訓練の一環ということで登頂を開始。身体に纏わりつく湿気と雨水を吸って重くなっていく装備が、本番のガ島を彷彿とさせました。参加隊員一同泥だらけになりながらも、本番に向けた雰囲気作りや隊の動きの確認をすることができました。そして第四回にあたる今回の訓練では、神奈川県丹

沢の大山にて実施致しました。今回は参加隊員を一時的に崎津隊長率いる第一小隊と、私率いる第二小隊に分けて行進し、小隊ごとの役割分担の想定や小隊同士の無線通信等の訓練を行いました。下山後は団体行動の確認やテント設営練習を行い、本番に向けた具体的な訓練を行うことができました。

現時点でガ島丸山道自主派遣に参加予定の当法人学生隊員は以下の六名です。

学生隊長

山口美朝 拓殖大学四年

学生副隊長

山口 葵 中央大学四年

外山 豊 南山大学四年

藤川竜馬 拓殖大学四年

笹原千佳 日本大学三年

山際崇之 中央大学二年

我々ガ島派遣隊員一同は登山訓練だけでなく、参加隊員が参集しての全隊会同や、現地での調査派遣、必要な装備、糧秣量、活動中の小隊編成及びその動きを想定した打ち合わせ

せを昨年の夏から行って参りました。今までの会同や訓練の成果が発揮される八月まで、残すところ三ヶ月を切っております。しかしまだただ精査すべきところは有り、収集活動に必要な骨格概要、上級救命講習、戦史勉強等もこれから随時行っていく予定です。

前代未聞のこの大きな自主派遣に、学生含め隊員一同胸を高鳴らせております。本番に向け、より一層気を引き締めて準備に務めて参ります。之を以て、今回の訓練のご報告とさせていただきます。



丹沢大山に於ける訓練参加隊員一同

被災地派遣報告文

災害派遣に
参加して

(第三次参加)

渡辺 聖子

(工学院大学一年)

今回の災害派遣では、一日目は岩手県釜石市の団地で、二日目は岩手県陸中山田の避難所で主に炊き出しと物資(ノート、文具、Tシャツなど)配布のボランティアを行った。一日目は雨が強く、団地だった事もあり、なかなか人が集まらなかった。二日目は、天候も良く、大きな避難所だった事もあり、沢山の方に列を作ってもらえた。手際良く作業をこなしつつ、笑顔と元気だけは忘れずに活動することは大変だったが、大切な事だと実感した。しかしやはり私たちがやっていたことは終始「作業」にすぎず、それ以上でも以下でもなかった事に少しもどかしさを感じた。もう少しゆっくり笑顔と元気を置いてきたかったが、単発の活動

ではこれが限界なのかと感じたと同時に、あまり無責任に深入りしてはいけないのかもしれないと感じた。また好意を押し付けてはいけないし、遠慮している方々も多く、パランスをとって声かけをするのが難しかった。

二日間で、沢山のものを見る事が出来たと思う。それは実際に被害にあった地域の光景であり、そこに住んでいる人々であり、そこで活動する人々だった。まず海に近くなればなるほどまだまだ支援の手が届いておらず、当時の悲惨さを感じられた。静かで広大な海が一番胸を打ち、衝撃だった。水につかって止まったままの郵便局の車は日常を思わせ、泥だらけの消防車は、当時の非日常さを感じさせ一気にたくさん光景が連想された。これは実際に行かなければ感じられない事だったと思う。そしてこれでも整備が進んだ方だと思つと、直後からずっと惨状を見てきた現地の方々には、私たちには計り知れない衝撃があるのだと実感し、決してわかつたつもりになって

はいけないと感じた。また、実際に被害にあった地域の状態をみて、本当に少しの差が明暗を分けるのだと知ることができた。基礎しか残っておらず、建物は粉々になっている家、基礎からは離れ、形を残したまま流れてきたであろう家、被害には合っているけれど、元の場所に形を残している家、何が明暗を分けたのか。その要因の一つに、大工の手のかけ方があるという話を聞いた。ちよつとした手のかけ方の違いで、こんなにも大きな差を生んでしまうのだという事を目の前にして、住宅を作る仕事に携わっていきたくと思った。少なくとも私が関わる住宅では、細かなところをないがしろにせず、手間をかけた住宅づくりをしていきたい。たくさん住宅に私が関わる事が、住人を守る住宅が増えることにつながるよう、努力していきたい。また、私と同じような志を持った人材が増えるよう、今回の活動で感じた事を、仲間伝えていきたい。

今回の活動を通して、沢山の価値観を持った人々に出会う事が出来

た。それは現地の人々であり、一緒に活動した人々だ。現地の人々とはなかなかお話しする機会は無かったが、冗談を言つて一緒に笑いあつた方や、桜がきれいだから見て行つてねと言つてくださった方の言葉が印象的だった。そこからはこれからの復興への前向きな姿勢と、地元への大きな愛を感じた。これからまだまだ長いスパンで行われていくであろう、それらの気持ちをサポートする活動に、少しでも参加していきたい。また一緒に活動をした仲間とはいろいろな話をする事ができた。それぞれがいろんな思いを持って今回の活動に参加し、一人ひとり違ったものを感じ取つたと思う。

今回の活動に参加し、元気と笑顔を置いてくるつもりが、逆に沢山のものを得ることとなった。今回インプットした事を、また違った場所ですアウトプットし、自分の身を通して次の世代に伝えていける存在になりたい。最後に、この活動に支援、協力を下さつた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

被災地派遣報告文

被災地派遣に
参加して

(全三回参加)
山崎 志真
(国土領大学四年)

四月八日から三回にわたって行われた東日本大震災への災害派遣に参加した。私が住んでいる千葉県の一部地域にも被害があり、また親戚にも被災した家族がいたため、何かしらの形で援助を行いたいと思っ

き、「並んでいる方々に行き渡らないのではないか」、という不安で首をもたげたが、行き渡らせることができた。第一回の派遣は二回の炊き出しとともに道路沿いの住宅地で行われたこともあり、片付けをする地域の人や、給水を受けに来た人、車で通りがかった人などが多く訪れていた。炊き出しとともに文房具やタオルなども配布していたのだが、こちらは子供の遊びに役立てたいなどの声が聞こえ、大好評だった。ノートを配布しているときに子供たちと話す機会があったのだが、元気づけようとする前に「お兄ちゃん疲れてない? 元気づけてね」と、逆に元気をもらい仕事に弾みがついた。

第二回派遣は気仙沼での炊き出しを行った。気仙沼は震災当日、コンビナートから漏れ出した油により火災が発生し、壊滅的な被害を受けていた。炊き出しの合間に壊滅的な被害を受けた地域を見ることができたが、テレビや雑誌をとおしてみるのはとは全く違い、その光景は心に重くのしかかってくるようだった。ガ

レキという言葉はふさわしくないが、多くの人々が普段通りの生活をしてきた空間を、一瞬でガレキにしてしまう津波の怖さを改めて思い知った。炊き出しの場所は初日も二日も避難所となっている学校で行われた。初日の学校は高台の上であり、学校に至るまでの道は津波により壊滅的な被害を受けた個所であった。ところどころ土を盛り、補修をしたことがうかがえるものであった。また、校庭の端は崖のようになっており、そのすぐ下に広がっていた街は津波により跡形もなくなっていた。津波から身を守るためには「距離よりも高さ」が大切だということが改めてわかった。

最終となる三回目の派遣は、大学の講義と重なったため一日のみの参加ということになった。前回までの二回と大きく違ったのは、復興が全く進んでいない地域だということだ。街の中はガレキが散在したまま、いたるところに車が大破した状態で置かれたままになっていた。また、火災で焦げた家屋の壁などが

生々しく、その被害の大きさを物語っていた。炊き出しを行うことになった地域へつながる道路が復旧したのがつい最近ということもあり、ところどころ道路の端が崩れていた。防潮堤の崩落個所がそのままになっていたり震災当時の様子が色濃く残っている地域だった。炊き出しは町役場の敷地で行った。炊き出しの前には街の放送で簡単な呼びかけが行われ、その甲斐あってか開始前には役場の敷地から行列が飛び出してしまつほどの盛況ぶりだった。東京とは桜の時期がずれていることもあり、満開の桜の下で中華饅をほおばり、豚汁を食べる姿がとても印象的だった。ただ、炊き出しの最中に「遺体の搜索範囲に関する連絡」が放送された時には、思わず姿勢を正してしまつたのを覚えている。

今回の派遣に参加することができ大変貴重な経験をする事ができました。今回の経験を自分一人の胸にしまつてではなく多くの人に知らせていくことができたらと思う。

平成23年度 大東亜戦争全戦歿者合同慰霊祭のご案内

大東亜戦争が終結して既に六十六年、この戦いにおいて尊い犠牲となられた戦歿者への慰霊の念が希薄化しつつある風潮の中、財団法人大東亜戦争全戦歿者慰霊団体協議会及び同協議会参加団体は、大東亜戦争全戦歿者の尊い犠牲に感謝し、その霊をお慰めし、偉業を讃えるため、本年も「大東亜戦争全戦歿者合同慰霊祭」を下記により開催致します。昨年に引き続き、参加団体である当法人も参列・協力させていただきます。

お誘い合わせの上、ご参列下さいますようお願い申し上げます。

記

- 一、日 時 平成23年7月9日(土) 12時～
 受付開始 11時～
 (受付は、靖国神社参集殿前、集合場所は参集殿)
- 二、場 所 慰霊祭 靖国神社 12時から13時まで
 直 会 靖国会館二階 13時半から15時まで
- 三、会 費 慰霊祭のみ参加の方 2,000円
 慰霊祭と直会に参加の方 7,000円
- 四、申 込 (財)大東亜戦争全戦歿者慰霊団体協議会事務局までご連絡ください

お問合せ先 (財)大東亜戦争全戦歿者慰霊団体協議会 事務局

電 話 03 - 5730 - 0421

FAX 03 - 5730 - 0422

編集後記

今年が始まって五カ月が過ぎ、例年より少し遅めのスタートとなったが、いよいよ遺骨収集活動が開始されるシーズンとなった。先日、厚労省より発表された今年の派遣予定を心待ちにしていた方もおられるだろう。今年も一地域でも多く、また一柱でも多く御遺骨がお迎えされる事を祈る。新たに開拓される丸山道での遺骨収集にも是非とも期待したい。自らも少しでも貢献できるように努めていきたい。(瀬)

五月三十日の拜礼式にて、シベリアや硫黄島等、今まで参加した政府派遣でお世話になった多くの方々との再会することができた。今でも顔を覚えて頂けているのは嬉しい。「いつの間にか偉くなったなあ」という言葉を頂き、嬉しい反面、まだまだ未熟者であることは見透かされてしまっているような気がした。降り続いていた雨は、不思議なことに式典中だけ止んだ。空から御英霊に見守られているような気がした。(美)